



老生ライフの知恵袋

大学にとって「冬の時代」といわれ始めたのは、少子化に歯止めが掛からないことが明らかとなった、20世紀の末頃。18歳人口が減った今では、廃止される学部や大学が増えています。大学は、若者ばかりを対象にせず、ますます増加する高齢者を呼び込んだ方が得策ではないでしょうか。高齢者を対象にし

シニア社会学会 会長 袖井 孝子

て成功した例に、立教セカンドステージ大学があります。これは、50歳以上を対象に、2008年に開校されたもの。短期の公開講座と異なり、単位の取得、ゼミへの参加、レポート提出もあります。最初は1年間だけでしたが、学生の要望にこたえて専攻科が設けられ、2年間通う人が増加。私はその大学で非常勤講師を務めていた頃、学生たちの真剣に学ぶ姿に驚きました。授業で私語をしたり、スマートフォンを眺めたり、時には眠ってしまう若い学生とは

大学で勉強する

年齢に関係なく学べる場に

明らかに違うのです。学生の平均年齢は60代前半。男性には大企業を勤め上げた人が、女性には子どもが独立した後の主婦が多数を占めます。入学した理由の多くは、学生時代は勉強できなかったからというもの。男性には「就職に有利だから」と理系を選んだが、実は社会学や心理学を学びたかったという人が目立ちました。一方で、女性には「女に学問は



いらぬ」などと言われ、大学に進学できなかった人が少なくありませんでした。今のように「誰もが進学するから」と大学に入ったものの、講義には出席せず、アルバイトばかりしている学生を見ると、高い授業料を払っているながら、もったいないと思います。「ある年齢に達したから大学に行く」といった観念を捨て、年齢に関係なく学びたい時に進学できる、柔軟な大学がさらに増えれば、本人にも大学経営にもプラスになるでしょう。